

令和2年度 特別活動実践・研究計画

部員	○菅野宣衛, 松橋純子, 小松田ひかり, 鎌田雅子, 村上宙思, 鈴木聡
----	--------------------------------------

研究テーマ
**仲間との関わりを主体的に求め、学校生活の充実と向上を目指す
 子どもを育む学び
 ～よりよい人間関係を形成する学級活動を通して～**

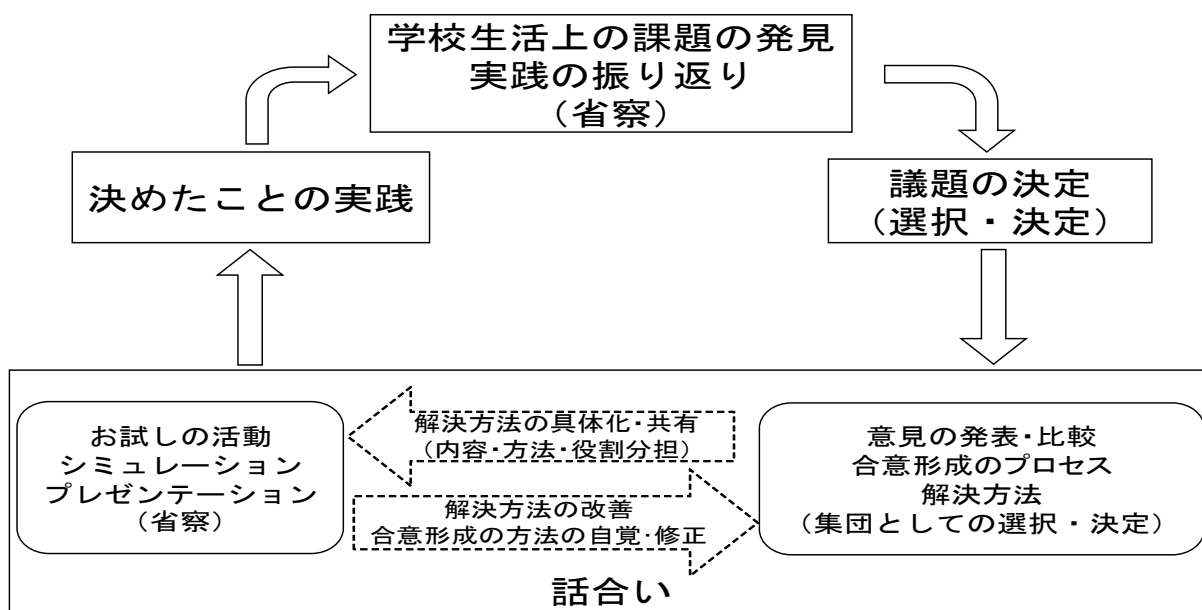
1 研究テーマについて

特別活動は、多様な他者との様々な集団活動を行うことを基本とし、そこでの「話し合い」をすべての活動の中心においている。そのため、本校の特別活動部では、すべての特別活動の中心となる「話し合い活動」の在り方を探っていくことを重視し、実践研究に取り組んできている。昨年度の実践では、指導計画上に「お試し」の活動やプレゼンテーションを効果的に位置付けることによって、主体的で目的意識をもった話し合い活動につながることを見いだすことができた。また、自他の変容を見つめる活動、互いのよさを共有する場を設定することで、話し合いの進め方に対する自覚や、よりよい合意形成の図り方への理解の深まりにつながるということが分かった。さらに、話し合う中で方向性がずれてしまった場合には、議題選定の理由を確認し、視点として共有することで「工夫考案型」の建設的な話し合いにつながるが見えてきた。その一方で、主体的に話し合い活動を進め、よりよい合意形成を図るための司会グループの編成の工夫と指導の在り方については課題が残った。

こうした成果と課題を踏まえ、学校生活や人間関係をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成していく力の更なる向上を図るために、今年度も研究テーマを継続し、実践・研究を進めていく。「仲間との関わりを主体的に求め、学校生活の充実と向上を目指す」とは、集団活動を基盤として自主的・実践的な活動を繰り返し経験することで、互いのよさや可能性を認め、伸ばし合うことの有用性を実感することである。また、「よりよい人間関係を形成する」とは、生活上の課題の解決に向けた実践を通して、仲間と話し合うことのよさ、協力して活動を成功させる喜び等を味わうことによって、子どもたち同士が人間関係を自主的・実践的によりよいものへと形成していくことである。

互いの意見の違いや多様な考えがあることを大切にし、学級や学校の形成者としての「見方・考え方」を働かせながら、学級としての考えや取組について合意形成していく過程を工夫をすることで、研究主題の「自律した学習者」を目指したい。特別活動の学級活動(1)における自律した学習者を育てる学習のプロセスを以下のように示す。

学級活動(1)自律した学習者を育てる学習のプロセス



また、特別活動における「学びをつなぎ資質・能力を高めている子どもの姿」を、次のように捉え、具現化を目指していく。

話し合い活動において他者の意見について共感的かつ建設的に関わり、学級や学校の形成者としての「見方・考え方」を働かせながら、学校生活がよりよくなるような考えを主体的・協働的に導き出そうとする姿

2 研究の重点

(1) よりよい考えを協働的に導き出す合意形成のプロセスの工夫

子どもたち主体の話し合い活動とするために、教師の介入の機会を見極めた上で、合意を形成して決定するプロセスを子どもたちに委ねていく必要がある。そこで、課題解決のためにどのような方法や手順で話し合うのが適切であるのか、司会グループが中心となり合意形成に結び付く論点や手順、方法を選ぶ場を設定する。合意形成のプロセスの例としては、「めあてや提案理由に立ち返って話し合いの方向を確かめる」「意見を合わせる」「新しい考えをつくる」「優先順位を決める」「条件を付ける」等が考えられる。子どもたち自身がプロセスや解決方法を「選択・決定」し、よりよい考えを協働的に導き出す経験を積み重ねる中で、集団で合意形成を図る手順や方法を身に付けることができるようにしていく。異なる意見や考えを基に、様々な解決方法を模索したり、折り合いを付けたりしながら合意形成を図り、実践していく過程を通じて、多様な他者と協力しよりよい人間関係や生活を築いていくことができるようにしたい。

(2) 学校生活上の課題解決を目指す目的意識のある話し合い活動にするための省察の場の工夫

学校生活の充実と向上を図るためには、協働して取り組むべき課題を子どもたち自身が見だし、必要感をもちながら話し合い解決していくことが大切である。そのためには、これまでの生活や実践を見つめ、課題や提案理由、解決方法等を自分たちのものとして具体的に捉え直す省察の場を位置付けることが重要である。これまでの実践から、「お試し」の活動を実際に行い体験してみる、仲間が行うシミュレーションやこれまでの活動を基に改善点を見つける、プレゼンテーションの場を設け具体例を示す、といった活動を設定することで、具体を基にした省察が可能となることが見えてきている。こうした省察を基に、一人一人の意見や提案理由を共有し、課題解決への見通しをもったり、共通の視点をもって考えを比べ合いながら話し合ったりすることができるように支援していく。省察の場を工夫し、効果的に位置付けることで、学校生活上の課題や解決方法を明確に捉え、主体的に話し合う子どもの姿へとつなげていきたい。

3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	・ 特別活動部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践・研究計画の確認 ・ 附属中学校との共同実践・研究 ・ 授業づくり、授業力向上 ・ 授業を通して重点事項の検証
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究パンフレット執筆 ・ 附属中学校秋季授業研究会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践・研究のまとめ ・ 小中連携、共同実践研究 ・ 附属中特活部への研究協力
3 学期	・ 特別活動部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践・研究計画の立案

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正